

京都市域地域医療構想調整会議の議事概要

- 1 開催日程 令和8年8月6日（木）16時00分～17時00分
- 2 開催方法 web 会議
- 3 出席者 出席者名簿を参照
- 4 議事の概要

【協議事項（公開案件）】

（１）新たな地域医療構想について

事務局から資料１－１～１－２に基づき説明。

〈主な意見〉

意見なし

（２）かかりつけ医機能報告制度について

事務局から資料２－１～２－２に基づき説明。

〈主な意見〉

- ▶ １号機能が72.5%と3割近くが外来をしていないというデータになると思うが、データの信頼性はどうか。
- ⇒ 感覚的には低い値と考える。制度開始１年目であり、設問によっては一部行っていないと考えられた医療機関が１号機能無しと回答した可能性もあるため、制度の周知徹底を図り実態に近づけて参りたいと考えている。

【協議事項（非公開案件）】

（３）病床数適正化緊急支援事業について

申請状況及び地域医療への影響の確認

（４）個別医療機関の病床機能等の見直しについて

病床の移動等

【地域医療構想アドバイザーのコメント】

- ▶ 一般社団法人京都府医師会 松井会長
 - ・ 今までにない病床の機能区分等で心配されている医療機関が多いのではないかと考える。
 - ・ 現行の地域医療構想は実情に応じた形等での医療機能の変化、医療提供体制の変化に取り組んできた。新たな地域医療構想もその路線を引き継いだ上で、府民が不安に思わないように、あるいは医療機関がそれぞれの役割を果たせるように進めていきたいと考えている。
- ▶ 京都大学大学院 今中教授
 - ・ 回復期から包括期に名称と機能が変更された。包括期の医療をどう確保して

いくかが重要なテーマの一つとなっている。

- ・ また、高齢者救急や地域急性期機能が重要な機能となっている。多くの病院が関わっておられる領域だが、地域医療における重要性を府民や医療従事者の間でも認識いただいた上で、この領域の価値を高めていきたい。
- ・ 地域医療構想は地域の実情に応じるということが重要である。京都の状況に応じたいい仕組みになることを願っている。

▶ **京都府立医科大学 吉井教授**

- ・ 地域の住民に必要な医療をどう守るかが出発点と考える。
- ・ データに基づき議論すると言われているが、構想区域が議論の出発点になることが多い。構想区域は、医療機関の連携・再編する単位と必要病床数を議論する単位の2つの役割があるが、必ずしもこの2つが同じ範囲になるとは限らないため、まずは構想区域をどう考えるかや、現在の構想区域の分析が必要と考える。